

鍵は「子どもの実態を捉えていく」こと



3月15日（月）に実施されました岡田特別支援教育課長の講義は、「特別支援学級の教育課程」と題し、種々の資料を基に、茨城県の特別支援教育の現状にも触れながら、通常の学級の教育課程との違いや教育課程編成上の留意点等について、お話をいただきました。

長期研修生からは、「特別支援学級の教育課程を編成する際には、障害の状態や程度等、本人の実態を十分に把握することが必要だと分かった。これまで自身が研究を進めてきた道徳の授業においても、実態把握は必要不可欠なものである。子どもの実態を捉えて手立てを講じたり、よりよく関わったりしていくことが、子どもに寄り添える教師の条件なのかもしれないと思った。」との感想が聞かれました。

真の「ワークライフバランス」とは

岡田課長と同日に実施されました田辺次長兼教職教育課長の講義は、「教員の働き方改革」を主なテーマとして、幅広い視点からのお話となりました。タブレットを用いて長期研修生に問いかけながら、教員としての業務への向き合い方や取り組む姿勢について、熱い思いを語っていただいた45分となりました。



長期研修生からは、「次長室に入るのは初めてだったために緊張したが、次長さん自らコーヒーを入れ、もてなしてくださったことで、安心してゼミナールに臨むことができた。自身の業務を充実させることが、自身の生活を充実させることにもつながり、働き方改革にもつながるといってお話が、とても印象に残った。あと数日で長期研修は終了するが、学校現場に戻ってからも、仕事と私生活のバランスを取ることを意識していきたい。」との感想が聞かれました。